

10月は3R推進月間です

3Rとは環境と経済が両立した循環型社会を形成していくためのキーワードとして、Reduce（リデュース：廃棄物の発生抑制）、Reuse（リユース：再使用）、Recycle（リサイクル：再生利用）の頭文字をとったものです。優先順位はReduce>Reuse>Recycleです。

平成24年度

長野県循環型社会推進大会 開催レポート

『もったいない』を大切にして、信州が誇るライフスタイルを！

日時：平成24年10月24日（水） 13:30～16:10（開場12:30）

場所：ホクト文化ホール（長野県県民文化会館）小ホール

プログラム

● 開 会（13:30）

・主催者あいさつ（加藤さゆり長野県副知事、鶴飼照喜信州豊かな環境づくり県民会議会長）

● 循環型社会形成推進功労者知事表彰

● 事例発表

知事表彰者による環境活動発表（1者）

● 事業発表（レジ袋削減のための新たな展開）

・長野県全域での「レジ袋無料配布中止」の提唱について（長野県廃棄物対策課）

・南信州における「レジ袋無料配布中止」の取組（南信州レジ袋削減推進協議会 会長 今村良子氏）

● 講 演

演題 地球とおさいふに優しい3R講座

講師 3R推進マイスター 和田 由貴 氏

● パネル展示 12:30～16:10

◇長野県 ◇信州豊かな環境づくり県民会議 ◇長野県リサイクル資材協会



開会あいさつ

長野県副知事 加藤さゆり

信州豊かな環境づくり県民会議 会長 鵜飼照喜

加藤さゆり副知事



○副知事となる前は消費者庁、地域婦人連合会全国組織の事務局で活動してきた。

地域の中で、環境問題、消費者問題、食の安全性、男女共同参画等、様々な活動をしてきたが、暮らしに近ければ近いほど地域活動は限定的なことでは済まなく、様々な課題に向き合いながら活動されている方々ばかりだと思う。

○消費者問題、環境、健全育成等の問題に共通して大事な事は、暮らしを見つめ、暮らし

を見直し、暮らしを高める事。一人ひとりの力は微力だが、課題を解決する時にはグループ、団体、地域の企業、行政などの多様な主体と連携し合い取り組むことが大事と思う。

長野の地でそうした取組をされてきた方々が今日ご参加いただいたと考えています。

福島の方から、人のつながり、絆は、災害が起きて初めて作るのは大変。日々の課題、問題に取り組む過程の中で人とのつながりを作ることを意識して作っていくことが大切という話を聞き、改めて意識した。

○県の循環型社会の形成に係る現状と課題について紹介

○循環型社会の形成は、県民の皆様、事業者、行政が一体となって様々な形で取組を進めていくことが肝要かと思う。ご理解とご協力をお願いし、本日の大会が皆様にとりまして3Rの必要性、実践方法の再認識していただく機会となる事を期待します。

鵜飼会長



○1997年の廃掃法改正の頃から地域の不法投棄問題に住民の目線から取り組んできた。その後、信州大学において平成16年からISO14001の認証取得に取り組みの退職まで続けてきた。

○循環型社会を形成するためには、県民、事業者、行政がそれぞれの役割を踏まえ連携をとって取り組むことが大切していくことが必要です。

○3Rについて更に理解を深め、循環型社会の形成の一端を担っていきたいと思っている。

活動が長野より活力のあるものにつながるよう、決して窮屈な活動ではなく、違った視点からゆったりとした取組のある生活に向かっていく事ができるのではないかと考えている。

循環型社会形成推進功労者知事表彰

「循環型社会形成推進功労者知事表彰」は、廃棄物の適正処理や減量化・資源化の分野において、取組を推進し、啓発、指導、教育など活動を継続し、すぐれた功績を挙げている事業者、個人、グループ及び学校等を表彰するもので、平成16年度から実施しています。

平成24年度は、「事業者の部門」において6名、「個人・グループ・学校の部門」において5名、その他の部門において2名、合計13名の皆様へ知事表彰が授与されました。

(順不同 敬称略)

部門	被表彰者名	所在地等	活動の概要
事業者	株式会社 八十二銀行 本店	長野市	金融業という業種から大量の紙を消費することに着目し「古紙の回収・再生・利用」のリサイクルシステム構築など、紙の循環システムを実現し、ごみの減量やリサイクルに配慮した事業活動を行っている。
事業者	株式会社 TOSYS	長野市	情報通信設備工事等を行う中で自社から排出される一般廃棄物削減に向け、ゴミ箱の集約・廃止とごみ分別の徹底等により資源化率80%以上を達成し、リデュース・リユース・リサイクルに配慮した事業活動を行っている。
事業者	竹花工業 株式会社	小諸市	産業廃棄物の収集運搬業及び処分業を行い、関係法令を遵守し適正処理に努めるほか、地域の環境美化活動等に積極的に参加するなど、地域の中核産業として循環型社会形成の構築に取り組んでいる。
事業者	有限会社 松岡産業	駒ヶ根市	産業廃棄物収集運搬業を行い、関係法令を遵守し適正処理に努めるほか、地元小学校の工場見学を受入れリサイクル勉強会を開催するなど地域社会との協調を図り循環型社会形成の構築に取り組んでいる。
事業者	株式会社 ヤマトインテック	塩尻市	製造業としてISO14001を取得の他、県と産業廃棄物減量化・適正処理実践協定を締結し、鋳造工程で生じる鋳物廃砂（鋳さい）の異物除去による分別を徹底するなど排出抑制とリサイクルに積極的に取り組んでいる。
事業者	川中島建設 株式会社	長野市	建設業として県と産業廃棄物減量化・適正処理実践協定を締結し、再生砕石及びアスファルト再生品の使用率向上を目標に、社内表彰制度を作るなど社員教育に力を入れ、減量化、リサイクル率の向上に取り組んでいる。
個人・グループ・学校 (グループ)	特定非営利活動法人 みどりの市民	長野市	生ごみ減量アドバイザー養成講座を行い人材を育成し、市民や団体へアドバイザーを派遣する他、レジ袋使用削減の推進として毎月5日にスーパー等の店頭で啓発を行いマイバッグ持参率の向上に貢献している。
個人・グループ・学校 (グループ)	須坂市連合婦人会	須坂市	質の高いリサイクルを推進するため良質の古紙の回収から再生品の利用までを考えた取組を行い可燃ごみの減量を推進する他、須坂市女性団体連絡協議会の一員としてレジ袋削減運動や生ごみ堆肥化の普及に携わっている。
個人・グループ・学校 (グループ)	飯山くらしの会	飯山市	家庭から出る廃食用油の回収を市と協働で実施し石けん作りを行う他、ごみ減量のため段ボールを使った生ごみ堆肥化の実演講習、マイバッグ推進のため店頭啓発活動に参加し市民への意識啓発を行っている。
個人・グループ・学校 (個人)	山崎 舜次 (やまざき しゅんじ)	岡谷市	永年、地区衛生自治会長及び市衛生自治会連合会長としてごみ減量・環境美化活動等に取り組む他、家庭ごみ有料化にあたり住民説明会の進行に関与し、住民からの問合せ対応、移行がスムーズに行えるよう努めた。
個人・グループ・学校 (個人)	谷口 久雄 (たにぐち ひさお)	岡谷市	永年、地区衛生自治会長及び市衛生自治会連合会役員としてごみ減量・環境美化活動等に取り組む他、家庭ごみ有料化にあたり収集場所に率先して立ち住民に対しきめ細やかな説明を行うなど地域から信頼を得ている。
その他	中村 廣行 (なかむら ひろゆき)	長野市	永年市職員として清掃業務に従事。廃棄物の適正処理及び資源化の推進等に取り組んだ。廃棄物の直接搬入時の適正分別指導、プラスチック製容器包装及び剪定枝葉の分別収集開始の際の住民説明会を積極的に行った。
その他	平田 雅之 (ひらた まさゆき)	松本市	永年松本市職員として一般廃棄物の収集運搬処理業務に従事。ごみ分別指導、廃棄物の適正処理、資源化等の促進等に情熱を傾け、ごみ減量推進に尽くした。市民の快適な生活環境維持のため清掃業務に貢献した。

○加藤副知事から知事表彰授与



○八十二銀行本店

総務部部長 中島 光章 様 謝辞



○受賞者、加藤副知事、鵜飼会長、原環境部長で記念写真



事例発表

テーマ／30年の活動をふり返って

発表者／飯山くらしの会 会長 鈴木聡子 氏



○飯山くらしの会は昭和 57 年に結成され、30 年間消費者目線で生活環境を守ろうと活動してきた。

○主な活動内容

- ・生活環境を守る廃食用油の回収、
- ・暮らしを守る消費者問題の啓発活動、
- ・安心・安全の食生活
- ・子供たちを巻き込んだ消費者活動
- ・家庭ごみ減量のための調査・啓発活動
など

○資源課推進の取り組み

- ・家庭から出る廃食用油の回収（会の発足当初からの活動）

現在は毎月 1 回廃食用油の回収を行い、一部を石けんづくり、残りを業者に渡し機械燃料としてリサイクルしている。

各種イベントで石けんづくり体験講座を行い参加者にリサイクル活動を体験してもらっている。
（汚れが良く落ちると人気）

○生ごみ堆肥化の取り組み

- ・家庭ごみ減量のため、約 10 年前からダンボールを使った生ごみ堆肥化の推進活動を行っている。
- ・経費が安い、誰でも取り組みやすい。（経費が安い）
- ・冬でも取り組める。（雪の多い飯山市でも、コンポストなどに比べ 1 年中堆肥化できる。）
- ・利点が多いが、途中でやめてしまう人がいる。匂いや虫の発生により管理が難しいと感じる人がいるため、対処方法を伝えていきたい。

○市の環境検討組織に参加

- ・飯山市廃棄物減量等推進協議会、飯山市環境審議会などに会から委員として参加している。

○レジ袋削減を推進するための活動

- ・レジ袋県民スクラム運動、環境に優しい買い物キャンペーンに参加し、啓発活動等を行っている。

事例発表

テーマ／レジ袋削減のための新たな展開

発表者／長野県環境部廃棄物対策課 課長 古厩 昭彦

南信州レジ袋削減推進協議会 会長 今村 良子 氏

○平成 24 年 9 月 14 日に長野県知事よりレジ袋無料配布中止の提唱がされたことについて、県廃棄物対策課古厩課長から説明



- レジ袋削減の必要性
- マイバッグ持参率の状況
- 各県の無料配布中止の取組
- レジ袋無料配布を中止した場合の効果

無料配布中止の取組について、皆様のご理解とご協力をお願いします。

○無料配布中止の成功例を、南信州レジ袋削減推進協議会 今村良子会長から発表



○現在、南信州地域におけるレジ袋辞退率は 92.8%。これは南信州の食品スーパーのほとんどが協議会の登録店となっているのでほぼ平均的な数字と言えます。

○県の県民スクラム運動のスタートと、南信州の協議会が設立したのはほぼ同時期だったが、南信州は無料配布中止をスタートし、県のマイバッグ持参率 48.4% と比べ順調に辞退率が増加しています。

○協議会として取組を始める前は、もともと南信州は環境に対する住民の意識が高く、全国のキャンペーンと連携し市民団体が個々に呼びかけていた。また、事業者も排出抑制の取組を個々に実施していた。

より大きな効果を得るためには事業者、消費者、行政が一体となった地域全体での取り組みが必要ということから協議会を設立した。

○取組の特色は、①小さな店舗でも気軽に参加できる登録制を採用していること、②レジ袋廃止、有料化、値引きから選択が可能で、各店舗の実情に応じて参加できること、③削減目標を協議会全体の目標として位置づけ、構成員がそれぞれの立場で取り組むために協議会全体でバックアップすることなど。

○有料化本格スタートまでの間、事業者、行政などがそれぞれ周知期間中に広報に取り組みました。

講演

講師 / 3R推進マイスター 和田 由貴(わだ ゆうき) 氏

テーマ / 地球とおさいふに優しい3R講座

○和田由貴先生は、東京都を拠点とし、主に節約アドバイザーとして、3R推進マイスター、消費生活アドバイザー、環境カウンセラー、省エネルギー普及指導員のほか、食生活アドバイザーや家電製品アドバイザーなど幅広く暮らしや家事の専門家として多方面でご活躍されています。

○講演、執筆、テレビ出演、新聞・雑誌やWebでの連載なども多く、主な著書として「適当・カンタン・楽しい! 和田由貴のシンプル節約術」やWebコラム日経BPエコマムの連載「エコライフアドバイザー和田由貴の実践! エコ生活」の他、数々のメディアにもご出演されています。

○現役の主婦、また、2児の母でもあり、日常生活に密着したアドバイスを得意とされており、「節約は無理をしないで楽しく!」がモットーで、耐える節約ではなく、快適と節約を両立したスマートで賢い節約生活を提唱されており、節約の視点からごみの減量についてお話いただきました。



○3Rで一番ははじめに行わなければならないのがリデュース。

○ごみを減らすために、ごみになるものを買わない、もらわない事はリデュースであり節約にもつながる。(グリーン購入)

○省エネ商品を買う事もごみが減り節約となる。(エコアクション)

○日本は容器包装が過剰。世界の食料品を写真で比較し、いかに日本の包装が多いかを実感しました。

○ペットボトルを買わないために・・・

○食品を上手に保存するために・・・

など、和田先生が実際に行っている方法を教えていただき納得。

○生ごみ処理機も、自分に合ったものを使いましょう。

○ごみの削減は環境にも優しく、節約にもなり、生活の快適さがあること。

先生のモットー「節約は無理をしないで楽しく!」は、3Rの取組にも大切な考え方だということを教えていただきました。



ブース展示

長野県、信州豊かな環境づくり県民会議、長野県リサイクル資材協会

- 3R推進月間横断幕
- 3R、レジ袋削減県民スクラム運動、食べ残しを減らそう県民運動の展示
- 信州リサイクル製品の紹介とリサイクル資材協会の展示
- 信州豊かな環境づくり県民会議で実施したポスターコンクール入選作品

